

原因疾患別の対応の根拠・予防策



身体拘束回避につながる 認知症の正しいアセスメントと対応

事例を交えてわかりやすく解説!

- 拘束中の二次的障害予防に向けた
適性拘束の判断根拠が分かる!
- 実践例をもとにやってしまいがちな
不適切ケアをブラッシュアップ!

大塚恒子氏 一般財団法人仁明会 精神衛生研究所 副所長
認定看護管理者
前・一般社団法人 日本精神科看護協会 副会長

天理高等看護学校(現・天理看護学院)卒業後、公益財団法人天理よろづ相談所
病院と兵庫医科大学病院を経て、1996年に財団法人仁明会病院の看護部長に就
任。2010年11月から仁明会精神衛生研究所副所長、訪問看護ステーション所長、
現在に至る。認知症ケア、身体拘束に関する多種の研修講師として全国で活躍。
「認知症ケア加算の算定に必要な手順書(身体拘束を含む)」の作成に携わる。

東京 20年10月25日(日) 日総研 研修室(廣瀬お茶の水ビル)
[時間] 10:00~16:00 [16]

※東京地区は4月11日(土)から10月25日(日)に日程変更になりました。

参加料 税込 一般 19,000円 会員 16,000円
※会員は日総研雑誌(定期刊行物・会員制)の年ぎめ購読者です。
※昼食代は含まれません。昼食は各自でお持ちください。
※ご参加いただくには事前のお申し込みが必要です。※最少催行人数15人。

プログラム

1. 身体拘束に関する現状

- 1) 身体拘束に関する現状
- 2) その身体拘束は適切ですか? 妥当ですか?
- 3) なぜ身体拘束が優先されるのか
- 4) 身体拘束による患者と看護師の不利益

2. 身体拘束を回避するケアのポイント

- 1) 認知症を理解して患者を混乱させない・認知症の定義・
原因疾患別の特徴を踏まえたケアの提供
(アルツハイマー型/レビー小体型/脳血管性/前頭側頭型)
- 2) 周辺症状の発症を予防、または軽減を図る
- 3) 認知症と非認知症~重要なサインと混同しやすい症状
(健常の高齢者の行動異常とせん妄)
- 4) カンフォータブル・ケア(快刺激のケア)の技法とその根拠

3. 身体拘束の知識・技術

- 1) 身体拘束の定義と対象者
- 2) 身体拘束を必要とする状況とは~その要因や背景のアセスメント
- 3) 身体拘束に向けた取り組み

4. 身体拘束実施時の対応

- 1) 手技・記録・観察 2) 二次的な身体障害の予防
- 3) 身体拘束回避のアセスメント

このセミナーの詳細はインターネットで検索!

日総研 14403

検索

関連雑誌

隔月刊誌(定期刊行物・会員制)

認知症看護と看取りの実践・教育に!

臨床 **老年看護**

B5判 120頁
入会金 3,000円
年間購読料
17,100円(共に税込)

- 9・10号特集
- 中等度認知症高齢者のケアと
リハビリテーション
 - 高齢者の生活習慣病 予防と治療・ケア
 - 高齢者の睡眠障害とケア

15年連続合格者数全国No.1!

厚生労働大臣指定 一般財団法人 日本総合研究所

社会福祉士養成所 通信課程

4月開講! 募集要項はダウンロードできます

日総研 社会福祉士 検索

日総研 **接遇大賞**

優れたサービス
取り組みを表彰

事例発表会は3月。応募は9月30日まで。

取り組み事例の紹介記事はこちら

接遇大賞 検索

お問合せ
ご注文

TEL: 0120-054977

URL: www.nissoken.com

日総研

検索